

「後期基本計画」策定に係る住民アンケート調査結果について【概要】

1. 調査の概要

- ・ 調査期間 平成25年7月1日～平成25年7月15日
- ・ 設問数 31問
 - フェイスシート 6問
 - 政策・施策等に関する設問 11問
 - 幸福感に関する設問 3問
 - 男女共同参画に関する設問 5問
 - 広聴・広報に関する設問 1問
 - 新東名IC周辺土地利用に関する設問 1問
 - 浜岡原発等に関する設問 4問
- ・ 調査対象 20歳以上の一般市民 3,000人（無作為抽出）
- ・ 回収サンプル数 1,223人（回収率 40.7%）

2. アンケート調査結果の後期基本計画への反映

(1) 市の取組に対する満足度と重要度から分析した今後の重点施策の抽出

同じ取組について下の2つの面からの回答結果をポートフォリオ手法により分析。

- ・ 設問10（アンケート結果P.6～）⇒市の取組に対する満足度
- ・ 設問13（アンケート結果P.12～）⇒市の取組に対する重要度

【分析手法】

- ① 同じ取組に対する重要度と満足度のアンケート結果を数値化し、重要度を縦軸、満足度を横軸にとったグラフに座標として落とし込んだ。
- ② グラフ（調査報告書17ページ）に重要度と満足度の平均値となる直線を2本加え、グラフ領域を4つのエリアに区分する。
- ③ 4つのエリアに次の名称を与える。
 - I. 重要度高・満足度低＝重点取組エリア
 - II. 重要度高・満足度高＝継続取組エリア
 - III. 重要度低・満足度低＝取組強化エリア
 - IV. 重要度低・満足度高＝取組検討エリア
- ④ グラフにおいて、重点取組エリアは重要度が高いにもかかわらず、市民の満足度が低い取組が存在するエリアであり、後期基本計画の中では重点施策として扱うこととする。
- ⑤ また、重点施策とそれ以外を区分する直線を、グラフの右上角と左下角を結ぶ対角線に平行に補助線として引き、この補助線周辺から左上の領域に位置する取組を優先的に実施すべき施策として扱うこととする。

【重点施策】

- ①医療の充実
- ②地震・水害など災害に強いまちづくり
- ③市の財政の健全運営
- ④障害者が生活しやすい環境づくり
- ⑤雇用の確保・勤労者福祉の充実
- ⑥生活に密着した道路の整備と維持管理
- ⑦安心できる消費生活の実現
- ⑧魅力ある商店街づくりなどの商業振興
- ⑨情報公開など行政の透明性の向上
- ⑩公共交通機関の充実
- ⑪計画的な土地利用の推進
- ⑫農林業の振興（生産基盤の整備・後継者育成など）

【優先的施策】

- ⑬高齢者の医療・介護・福祉の充実 ⑭犯罪防止対策 ⑮交通安全対策 ⑯保育環境の充実
 や子育て支援 ⑰まちの拠点としての駅周辺整備 ⑱企業への支援や誘致などの工業振興
 ⑲富士山静岡空港を活用したまちづくり

(2) 新しい指標「幸福感(度)」の導入

【幸福度とは…】

- ・所得などの経済的要素だけではなく家族や社会との関わり合いなどの要素を含めた指標

【指標設定の目的】

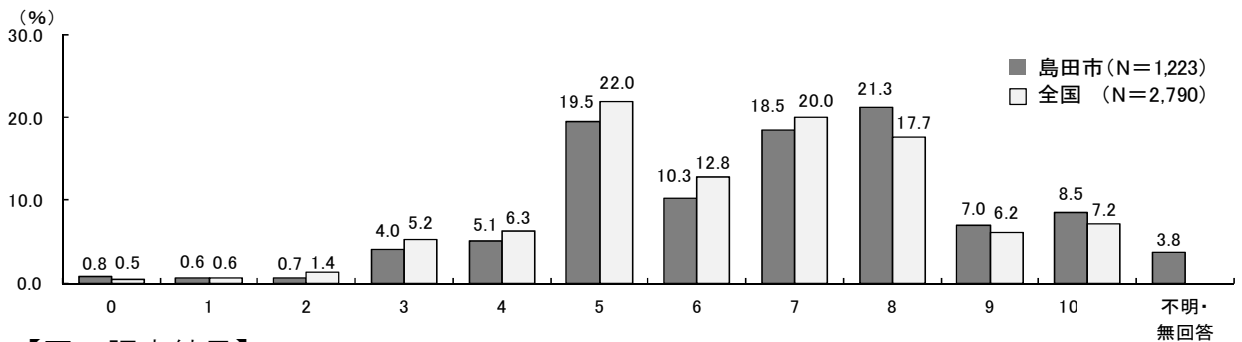
- ・行政の政策評価は、例えば「公園をつくった数」や「道路の整備メートル数」など、政策の「直接的な結果」であった。
- ・本来は、公園をつくったことや道路を整備したことで市民にどのように役立ったのかといった、事業効果を実感したことによる「成果」で評価すべきもの。
- ・この「成果(市民が感じるもの)」を指標としたのが「幸福感(度)」であること。
- ・後年度に市民の幸福感(度)を再度調査し、その数値により政策方向性にずれはないか等、市政運営における評価材料とする目的で設定するもの。

【住民アンケートによる幸福感(度)の調査結果】

- ・問18により、幸せに感じている度合いを0点から10点の範囲で回答いただいた。

(集計結果)

○回答いただいた平均点の算出 6.7点 (うち、男性 6.5点、女性 6.8点)



【国の調査結果】

(図1) 個人の幸福感の経年比較

